二七の椿朱欄のそり橋を作るところに誉れ
啼く
うつし世も御仏の世の相ある夕の月に桜の
散れば
比ぶべき身と思はねど白菊のさびしきまでに
流るる
あはれあれ人と実るとを多く持ちたりしにも
仏の日とありぬ
青き塔谷中のさくらみが立つは駒込ならのめが
るみの道

左記に御回送相成度
牛込区若松町八一
島田吉峯様
御待申
こと